

未来に向かって伸びる鶴嶺の子 鶴小だより 9月号

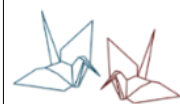
「子どもの話を聴くときは・・・」

(兵庫県教育委員会 防災マニュアルに基づいて)

文：篠原久美子

1. 子どもの声を聴くときは、教えてもらう気持ちでね 一生懸命、耳傾けて、教えてもらおう、子どもの世界 子どもの世界の扉はね、内側からしか開かないの 信じるおとなに向かってね
2. 子どもの話を聴くときは、じっくり、ゆっくり、ゆったりね 言おうと思うと時間切れ、中途半端は苦しいよ 子どものつらさと言葉はね、外に出るまで時間があるの 待ってる時間も、聴いてる時間
3. 子どもの話を聴くときは、「聴いてるサイン」を伝えてね あいづちうって、うなずいて、子どもの言葉を繰り返し 不安な気持ちの子どもはね、小さな合図で安心するの 「ぼくを分かってくれてるな」って
4. 子どもの話を聴くときは、途中で止めたりしないでね 批判をしたりまとめたり、言い聞かせないでただ聴いて おとなが口を開くとね、子どもの口が閉じてくよ 知りたいのなら、耳、開こう
5. 子どもの話を聴くときは、瞳のサインをみていてね 子どもはたいいおとなのね、目なんか見ては話せない それでも分かっているとき、瞳で合図を送ってる 見逃さないで、みていてね
6. 子どもの話を聴くときは、顔の高さを合わせてね 上から見下ろされるとね、だれでもちょっと堅くなる 視線の低い子どもにね、しゃがんで視点を合わせてね 子どもが話しやすいから
7. 子どもの話に答えるときは、声の調子を同じにね 大きな声や高い声、おとなのいろいろ伝わるよ 子どもは意味を知らなくてもね、声で気持ちが分かるんだ 言葉が出にくくなっちゃうよ
8. 子どもの不安を聴くときは、子どもの気持ちを感じてね 「なぜ?」「どうして?」が、問

茅ヶ崎市立鶴嶺小学校
校長 日高 大司郎
令和7年9月2日発行



いつめを感じてしまうとき、あるの 子どもの心配、不安はね、「不安なの?」って繰り返してね 答えは、一緒に考えて

9. 子どもの不安を聴くときは、すぐに原因、決めで 「地震のせいだ」「性格だ」、決めてもそれは答えじゃないの 子どもを取り巻く世界もね、子どもの心も単純じゃない 広く大きな視野で見て
10. 子どもの悩みを聴くときは、子どもの力を信じてね しっかり聴いて、じっくり支え、色々な見かたのアドバイス だけど最後は子どもがね、子ども自身で解決するの おとなが信じた子どもはね、乗り越えられるよ、大丈夫

これは、阪神淡路大震災の時に、兵庫県の教育委員会がつくった10項目を、劇作家の篠原久美子さんが詩にしたものだそうです。

お読みになった感想はいかがだったでしょう。僕は、子どもたちの話を十分に聴けているでしょうか。忙しい毎日の中で、どうしても大人の都合が優先されてしまっていないでしょうか。

大人も子どもも、「生きる」ということは、大変なことだと思います。周りの環境や状況は、自分の思いや気持ちにはお構いなしに、動いていきます。状況は絶えず変化し、その中で他の人との関わりで傷つけられたり、予期せぬ不幸に襲われたりすることもあるでしょう。そんな中でも、僕らは生きていくのです。

同じ生きていくなら、幸せに生きていきたい。そうあるために大切なものの1つに、「アタッチメント」があります。「アタッチメント」とは、人が不安・恐怖などを感じた時に特定の他者に「くっつく(attach)」ことで安心感を得る本能的な欲求や行動のことです。幼児期には特に大切だと言われていますが、幼児期に限らず、一生に渡って大事なものだとも聞きました。

「くっつく」とは言っても、そのくっつき方が成長によって変わっていきます。物理的な接触が必要だったものが、話を聴いてもらうだけで、安心感を得られるようになっていきます。話を聴いてもらって楽になった経験、おありですよね。

子どもの話をよく聴くことができるということは、ただそれだけで子どもの心に寄り添うことです。どうぞ、この詩を参考になさってください。

そして、あなたの大切な誰かを支えるためにも、聴き上手の自分をめざしてほしいと思います。